

MCE研究会／コンフリクトの人文学特殊演習

チェコ国民楽派と進化論 —

スメタナ＝ドヴォジャーク論争を手がかりとして

日時：2012年2月3日（金）16:20～17:50

場所：大阪大学文学部ドイツ文学研究室（文学部本館4F）

Tel: 06-6850-5116

講師：福田宏（北海道大学スラブ研究センター研究員）

表題：チェコ国民楽派と進化論 — スメタナ＝ドヴォジャーク論争を手がかりとして

概要：スメタナとドヴォジャークは、共にチェコ国民楽派を代表する作曲家と位置づけられているが、彼らは生前からそのように評価されていたわけではない。19世紀末のチェコ社会では、スメタナを支持する「進歩派」とドヴォジャークを支持する「保守派」が対峙し、どちらが「真の」チェコ音楽であるかについて相争っていた。この激しい論争は、現在の我々には理解しにくいものであり、論者によっては、この対立を「コップのなかの嵐」として片付けてしまう者すらいる。だが、この論争を社会ダーウィニズムという視点から見ると新たな知見が得られるのではないか。本報告は、音楽の進化と退化という論点から国民楽派を再考する一つの試みである。

主催：大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文学」／
「美的近代におけるローカリズムと反ローカリズム」研究 PT／
「音楽の生産・流通・消費におけるコンフリクト」研究 PT

問合せ：大阪大学文学研究科ドイツ文学研究室（06-6850-5116）